

シロバナタンポポの謎



本校の校庭には、2種類のタンポポが繁殖しているのをご存じだろうか。

一つは セイヨウタンポポ。もともとは日本に存在していなかった外来種である。植物学者の牧野富太郎という人が、1904年に札幌でセイヨウタンポポが見つかったことを紹介しているが、それ以来、急速に日本中に広がっている。本校の校庭で見られる「黄色いタンポポ」の正体は、調べてみると、このセイヨウタンポポだったのである。

そして、もう一つは シロバナタンポポ。つまり、その名のとおり「白いタンポポ」であり、校庭にある古いバックネットの近くの土手の斜面に大群落を作っている。セイヨウタンポポが外来種であるのに対し、こちらは、日本古来から続く在来種なのである。『タンポポといったら黄色。タンポポが白いわけないでしょう。』これが、ほとんどの栃木県人の常識に近いと思うが、西日本では、この白いタンポポの方が当たり前の地域もあるらしい。

ところで、このシロバナタンポポには謎がある。

この近辺ではほとんど目にすることのないシロバナタンポポが、なぜ、本校の校庭に繁殖しているのか、という点である。

かつて、理科の先生がどこからか持ち込んだのが繁殖したのだ、というまことしやかな話を聞いたことがあった。しかし、今となっては確かめる術もない。県立博物館の学芸員の話では、シロバナタンポポは県央と県南の一部に局在しているが、あまり詳しくは調べられていないようだ。また、何人かの理科の先生の情報によると、足利の織姫神社や足利工業高校、足利南高校、小山高専などでも見られるとのことであるが、学校などに多いのが、やはり気になる。理科の先生説？ シロバナタンポポの分布について調べてみると何かわかるはずだ。きっと、おもしろい研究になると思うよ。

